

## コレスポンドンス

シャルル・ボードレール  
市川 裕見子訳

自然はひとつの神殿だ。そこでは生きた柱の数々が  
ときおり判然とせぬ言葉を洩らしている。  
人は象徴の森を渡ってゆき  
森は親しげなまなざしを人に送っている。

はるか遠くから返ってくる<sup>こだま</sup>木魂が  
暗く深くひとつに溶けあうように、  
夜の闇のように、昼の光のように広大に、  
芳香と色彩と音響とが呼応しあう。

子供の肌のように新鮮で、オーボエのようにやさしく、  
平原のように緑なす芳香があると思えば、  
—— また一方では腐敗した、豊潤で華々しい芳香が漂う。

無限なるものの拡がりをもつこと、  
琥珀や麝香、安息香や乳香のごとくだ。  
そしてこれら芳香を放つものは、精神と感覚の横溢を謳っているのだ。

“Correspondances” (「コレスポンドンス」)

ボードレール (1821 - 1867) 『悪の華 Les Fleurs du mal』 (1857 初版) より。なお、  
初版、第二版、三版ともに、この詩に関しては変わっていない。

翻訳にあたっては、Baudelaire, Les Fleurs du mal, Classiques Garnier, 1961 を用いた。